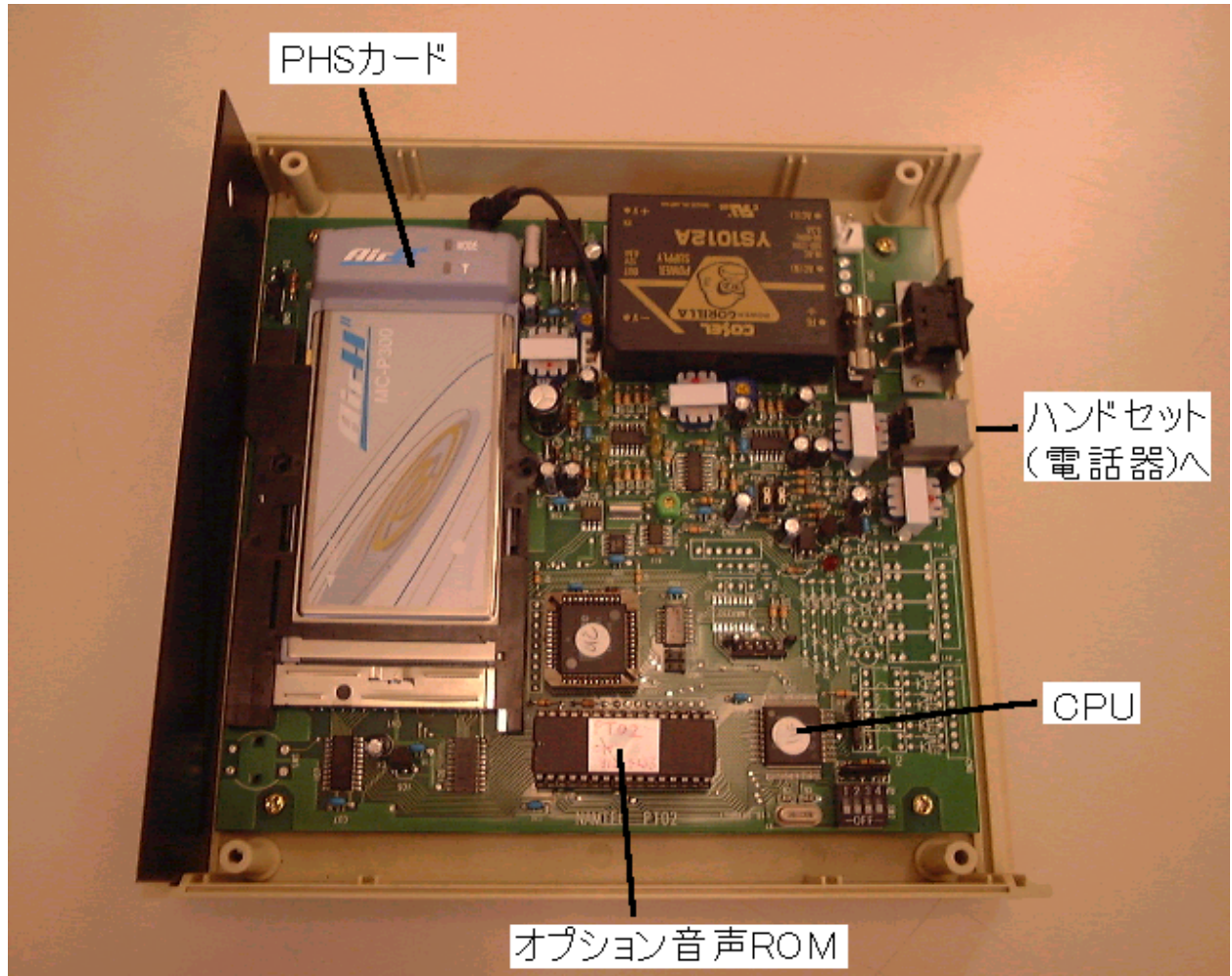


特注例 2

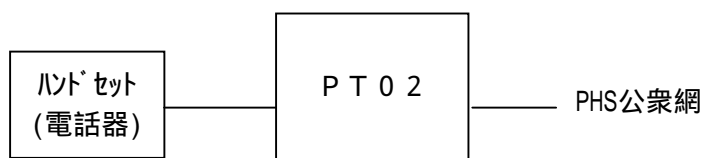
PHSホットライン電話(PT02)



1. 概要

市販のPCカード型PHSを利用して一種のホットライン電話を実現します。利用者が電話器（ハンドセット）のフックを上げると、設定されている電話番号に自動的にダイヤルします。通報先の相手が出た時点で通常の電話と同じように通話可能になります。利用者は電話番号を押さなくてもフックを上げるだけで利用できるため、例えばタクシーの専用呼出し電話や独居老人の緊急電話などの用途に利用できます。オプション音声ROMを搭載することで、相手呼出し中にハンドセットへ広告音声を流したり、相手側に対してどこからの電話かを通知する音声を追加することができます。

2. 接続図



3. 主な仕様

電源：	AC100V	20VA以下
適合PHS：	セイコー製CARD-H	x 1回線
適合電話器：	一般回線用2線または4線式ハンドセット	
音声記録媒体：	外付けEPROM(1~4Mbit) / 内蔵フラッシュROM(96Kbit)	
外形：	190W x 200D x 54H (mm) (但しゴム足の高さを含まない)	
ケース材質：	プラスチック(ABS樹脂)	

4. 機能

電源投入後約10秒で通常使用モードとなり、ハンドセットの監視を開始します。ハンドセットがオフフックされると直ちに登録済み電話番号へ通報を開始します。通話可能になるまでの間、ハンドセットからは「ただいま呼出し中です(例)」というメッセージが繰り返し再生されます。一定時間呼出しても相手先が出ない場合や、話中の場合は「ただいま回線が込み合っています、しばらくしてからご利用下さい(例)」というメッセージが繰り返し再生されます。相手側がオフフックすると通話可能になります。通話が終了してハンドセットがオンフックされるとの状態に戻ります。オプション音声ROMを搭載すると、通報先で電話に出た時に受話器から「xxからです(例)」のように通報元を特定するための音声を流すことができます。外部のVT100互換端末から一般モデムを介してPT02に接続することで各種設定を行うことができます。装着されているPHSカードに対してPC端末から発呼するとPT02が自動的に応答し、この状態で端末からのコマンド操作によって通報先電話番号等の内部設定を変更することができます。内部設定は不揮発性メモリーに記録されるため長時間電源を切った状態にしても内容は保持されます。

5. 注意事項

PHSカードおよびDDIポケットへの加入契約が必要です。
オプションROMに登録できる音声は最大延べ60秒までです。

6. 開発者の一言

タクシー呼出用電話として開発を受託した案件です。数年前に同じ会社向けに固定電話回線用の装置を開発したことがありましたが、この製品は固定電話回線をPHS回線に置き換えたものです。PCMCIAカードを利用した音声ユニットを開発した経験から、PHSカードへのアクセスは容易に実現できました。本当は32kデジタル音声(ITU-T G.726)でやりたかったのですが、製品コストの問題とPHSカード側の機能上の制限から、音声通話時はPHSカードのアナログ端子を使用することにしました。基板上にリレーやフォトカプラを搭載するスペースがありますので、警報入力によって通報したり、PHSカードへモデムでアクセスして外部機器を制御する用途へも応用できます。

7. 開発費と開発期間

本案件の費用(税別)と期間は以下の通りです。

予備実験・実証機試作	約2ヶ月	約90万円
回路・基板・ソフト開発	約3ヶ月	約130万円
量産基板(40枚/ロット)	約1.5ヶ月	約135万円

ただしPHSカードは顧客から借用、開発中および量産品試験時の通信費も顧客持ちでした。また著作権は弊社に帰属し顧客へは譲渡しない条件での価格です。